

れば、利子負担は少ななくてきたのではないか。

さわやかプラザ廃止論議のように、不正確な情報で議論をリードしようとする態度は、協働とはいえないのではないか。

高薄町長

平成13年に就任以来、行財政改革を進め、施設の移譲・統合・売却を断腸の思いで実施してきた。行財政改革の評価は町民からみて不十分な面もあったが、本町が生き延びるためには必要なことであるという意見ももっている。

繰上償還は、一時は一括して償還を協議してきたが、繰上げは国からすれば財政が裕福な自治体と見られる懸念があり、制度が確立するまで誤解を招くことはしないということから、十勝圏活性化推進期成会の重大事項として国に要望した。

さわやかプラザは、行財政改革の中で将来的に廃止の検討がなされたが、廃止ありきで検討したので

はなく、残していく方法はないか庁内で議論し、住民説明会をして今日に至っており、住民の心を大切に、情報公開しながら進めている。

経済活性化は不可能なのか

橋本晃明議員

企業誘致をはじめ、経済活性化が思うように進まない原因をどのように整理し、今後どのように取り組んでいこうと考えているのか。

経済活性化戦略会議には専門家を含む作業部会が設置されているか。

明治乳業十勝工場が芽室町にできるという情報は得られなかったのか。

清水ブランド認証の効果として、農畜産物等の売上増に結びついたか。

高薄町長

平成13年4月に経済活性化戦略会議を設置した

が、経済活性化はなかなか進んでいない。しかし、それぞれの事業所、団体が努力をし、地域資源をいかして産業・観光をどうするかとの共通認識が持てた、農畜産物のブランド化等の効果が生まれている。

経済活性化戦略会議は、

経済関係団体の代表者で構成し、その下に各団体の事務局長や役員職員等、事務を実際に行う幹事会を設けており、北海道経済産業局、開発建設部、とかち財団、十勝支庁などにオプザーバーをお願いし、必要に応じて指導いただいている。

明治乳業の工場建設の情報はなかったし、本町の雪印で集荷している牛乳がそちらに行くことも知らなかった。

ふるさとブランドとかちみずは、現在103品を認証している。認証制度を受けて伸びている商品や事業所はあると聞いている。

町組織改革の進捗状況

原 紀夫議員

平成20年度を目前に、現在実施中のグループ制をはじめ、昇任、昇格、降格制度等の人事管理など内部改革の見直しを図ることになってきたが、現在どのような進捗状況にあり、実施時期はいつになるのか。

職員数を120名体制に近づけたいと以前から答えられているが、職員も同一認識か。

一般職員数は財政推計上のもので、実際の職員数は120名にとらわれないと別の場合で発言しているようだが、これでは目標数に程遠いこととなる。人事評価システムの整備を急ぐべきでないか。

高薄町長

平成20年5月に組織機構等検討委員会を設置し、組織機構部会、組織活性化部会合わせて16回の会議を開催しており、今後は、

理事者との意見交換、全職員の議論を経て、来年度、改革を進めていく予定。120名体制は職員も同一認識かとのことだが、行財政改革推進本部で議論したことで、職員もこの体制を一つの目標とし、近づけなければならぬと理解している。

人事評価システムは、現在、国において地方公務員法の改正案が継続審議中で、今後導入するにあたり、来年度4月より専任の職員を配置し、専門的に検討しなければならない。

通学児童街頭指導体制の変更

原 紀夫議員

現行の交通安全推進員

及び交通安全支援員を廃止することは、第二次緊急

3か年計画に沿ったものと理解するが、有償ボランティアによる体制が、従前の指導体制より後退する感が否めない。本町の交通



街頭指導により通学の安全が守られている。

事故は、平成20年は死亡事故が3件と痛ましい状況にある。有償ボランティアによる街頭指導体制の主力を交通安全推進委員会に委ねず、若い主婦層に広げ、低学年児童に配慮した体制構築に努めるべきが先決ではないのか。本体制は今後も長期間継続されるものであり、再考を求めらる。

高薄町長

交通安全支援員は専任で置いているが、複数のほうがいいということ、生活安全推進委員会全体で協議していただき、みんなでまちづくり協力して